

U'S UP LIST+

取報説明書



U's UP LIST+(プラス)とは?

外為どっとコム総研の宇栄原がFXトレードを実践する際に何を元に売買の判断しているのか?
その考えをまとめた「U's UP LIST(No1)」(ユーズアップリスト)を発行させていただいてから早くも
1年が経ちました。

この間も日々リアルトレードを実践する中で、相場と対峙し利益追求する際、「U's UP LIST(No1)」
ではお伝えできていない新たなトレード手法や相場の捉え方、考え方など私自身も成功や失敗を繰り返す中でトレード手法をブラッシュアップさせていただいておりました。

今回は、その新たな視点や具体的手法を可能な限り追記し新刊「U's UP LIST+(プラス)」としてまとめさせていただきました。ファースト版リリース後には、大変有難いことにLISTを手にした多くの方々より参考になったとの声を頂戴し身に余る光栄です。

この度、新発行させていただいた「U's UP LIST+(プラス)」も引き続き「U(You)'s UP(皆様が向上するためのリスト)」となり、「U(ユメ)'s UP(皆様の夢が広がるリスト)」として、ご活用いただければ心より幸いであり、この上ない喜びです。本LISTを手にしていた皆様のFXトレード能力の向上を切に願っております。

※なお「U's UP LIST」はあくまでも宇栄原の考え方であり、実際の投資判断はご自身で行ってください。

『U's UP LIST+』では
エントリーする際の具体的な考え方について説明していく

- ① 現在のトレンドを把握して買い戦略・売り戦略を判断する
- ② トレンドに沿ったエントリーポイントを考える
- ③ リスクリワードが『1対1』以上になるポイントまで引き付ける
- ④ 見立て通りの動きになつたらエントリー
- ⑤ マイルール(自分自身のルール)に則って決済する

1. エントリーポイントの判断
2. トレンドごとの戦略
 - 押し目買い・戻り売り
 - ゾーン理論
 - チャートパターン
 - レンジ、レンジブレイク
3. ローソク足の見方＆捉え方
 - 重要なローソク足形状

4. 外為注文情報の活用
5. リスクリワードでエントリー判断
6. 難平(ナンピン)は良くないのか？
7. じり高じり安相場の見方＆捉え方
8. コツコツドカンの失敗例

『現在のトレンドを把握して 買い戦略・売り戦略を判断』

- ◇ 現在のトレンドをチェックして『**買い目線か？売り目線か？**』どのようにエントリーしていくか考える必要がある！
- ◇ トレンドがあるときは、基本的に順張りトレードを遂行
- 上昇トレンド ⇒ **買い目線**
 - 押し目買い、チャートパターン、ゾーン理論(P7)
- 下落トレンド ⇒ **売り目線**
 - 戻り売り、チャートパターン、ゾーン理論(P7)
- ◇ レンジの場合は、基本的に逆張りトレードを遂行(P33)
- レンジ ⇒ レンジ下限で買い、レンジ上限で売り
レンジブレイク時は (順張り) トレードに切り替え

順張りトレードの基本シナリオを解説

► 押し目買い、戻り売り(P8~10)

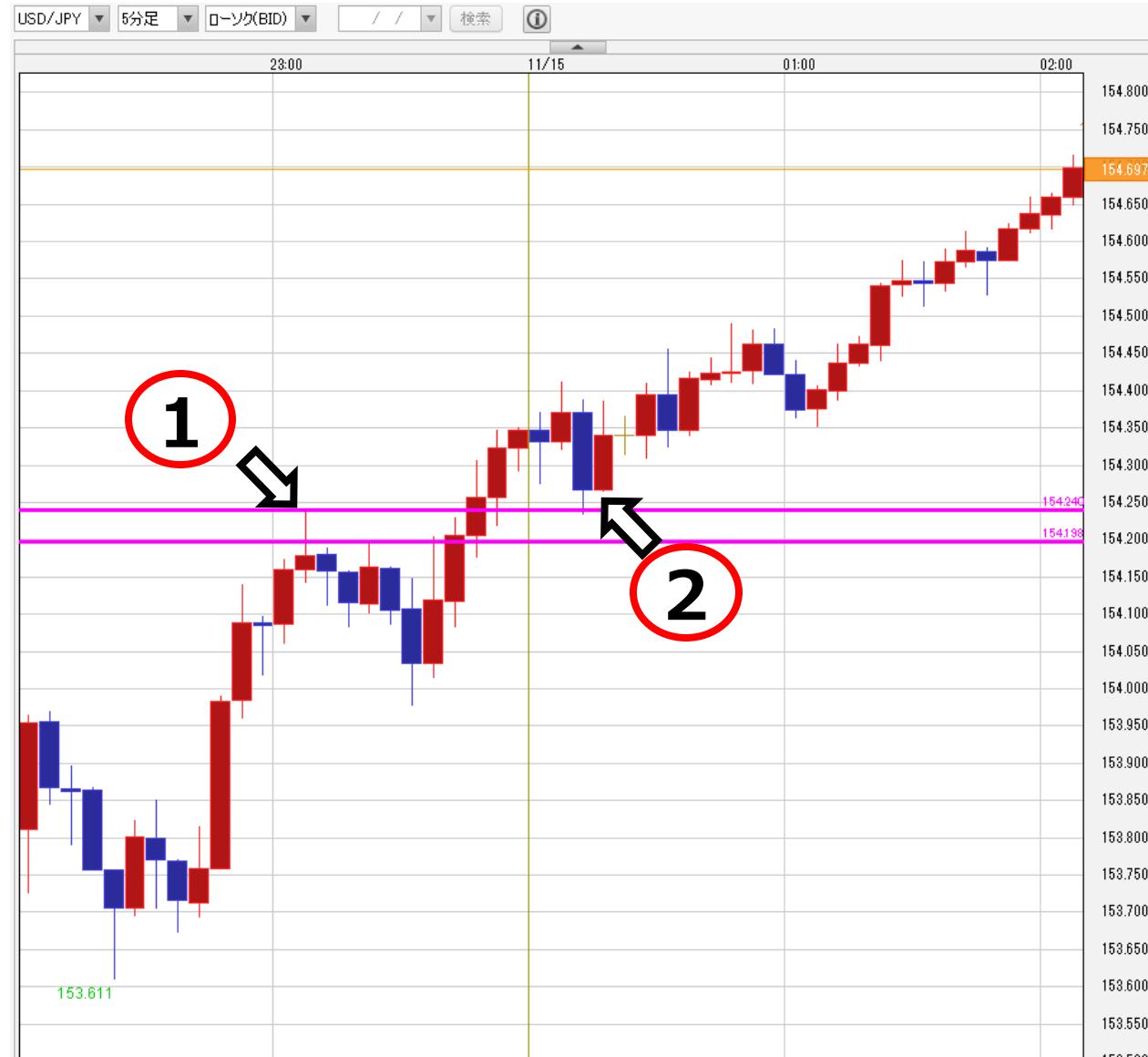
► ゾーン理論(P11~17)

► チャートパターン(P11~32)

押し目買い・戻り売り

- ◆ **押し目買い**：上昇トレンドの時に、市場参加者の利益確定などによつて一時的に価格が下がった後、再び上昇するタイミングで**買いエントリー**すること(P9)。
 - ◆ **戻り売り**：下落トレンドの時に、市場参加者の利益確定などによつて一時的に価格が上がった後、再び下落するタイミングで**売りエントリー**すること(P10)。
- ※ 上値抵抗・下値支持に到達した後、再び上昇・下落するタイミングでエントリーを判断していく必要がある！

※上値抵抗・下値支持については『U's UP LIST(No1)』に記載(P14~16参照)



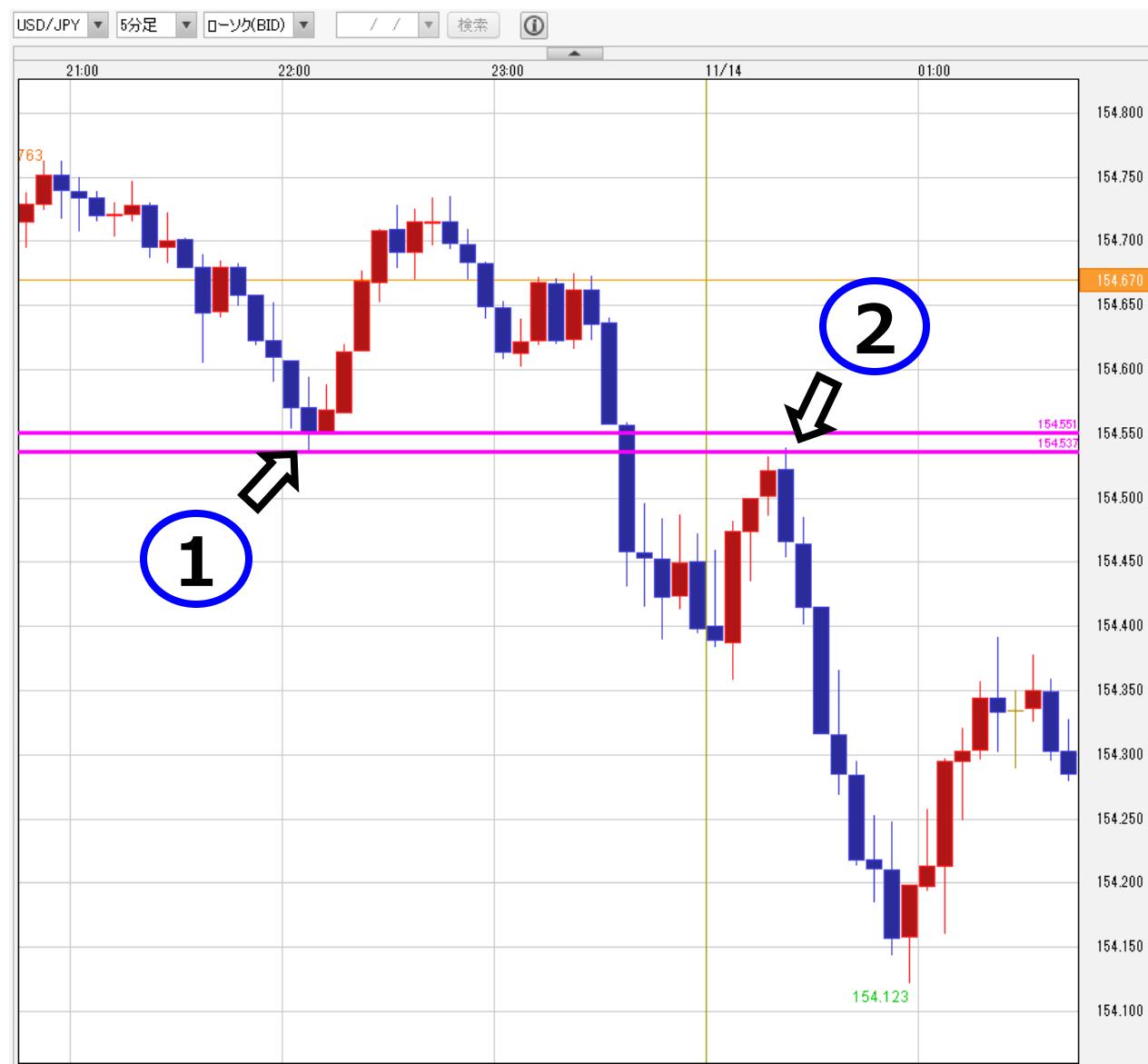
<押し目買い>

◇①の高値水準が②で下値支持となり反発(上昇)するタイミングで**買いエントリー**を検討 (レジスタンス(上値抵抗)がサポート(下値支持)に変わるためにレジサポ逆転という)。

◇なお、直近高値で必ず切り返すとは限らない点に**注意**。少し割り込んだり、**手前で反発**することもある。

その場合は、この後に説明するローソク足の形状などを見ながら**反発タイミングを判断**する必要がある。

押し目買い・戻り売り



＜戻り売り＞

◆①の安値水準が②で上値抵抗となり反落するタイミングで売りエントリーを検討（サポート（下値支持）がレジスタンス（上値抵抗）に変わるためにこれもレジサポ逆転という）。

◆なお、直近安値で必ず切り返すとは限らない点に注意。少し上抜けたり、手前で反落することもある。

その場合は、この後に説明するローソク足の形状などを見ながら反落タイミングを判断する必要がある。

◆ **移動平均線ゾーン理論**とは、2本の移動平均線を利用して押し目買い・戻り売りタイミングを判断する手法である。

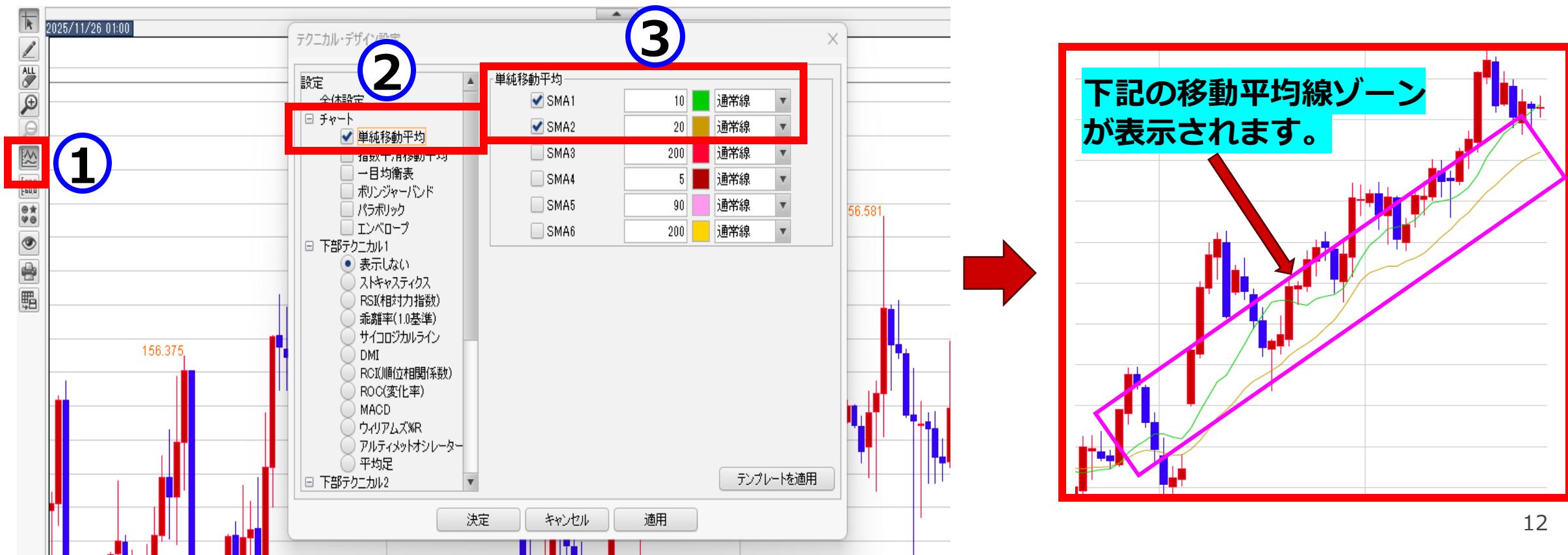
＜基本思考＞

- ▶ 単純移動平均線SMAのパラメーター（10・20）の2本を同時表示させる
- ▶ SMA10・20の間の空間をゾーンと呼ぶ
- ▶ ゾーンを押し目買い・戻り売りポイントとして見る
- ▶ 2本のSMAが同じ方向（上昇or下落）を向いていること確認する
- ▶ SMA10・SMA20に到達した後、もしくはゾーン内で切り返すタイミングをエントリーポイントとして判断する
- ▶ SMA20を終値で抜けて反転の勢いが強いと見たら損切り
- ▶ 基本は5分足で確認
- ▶ トレンドが強く5分足ゾーンから遠い場合は1分足ゾーンで判断する

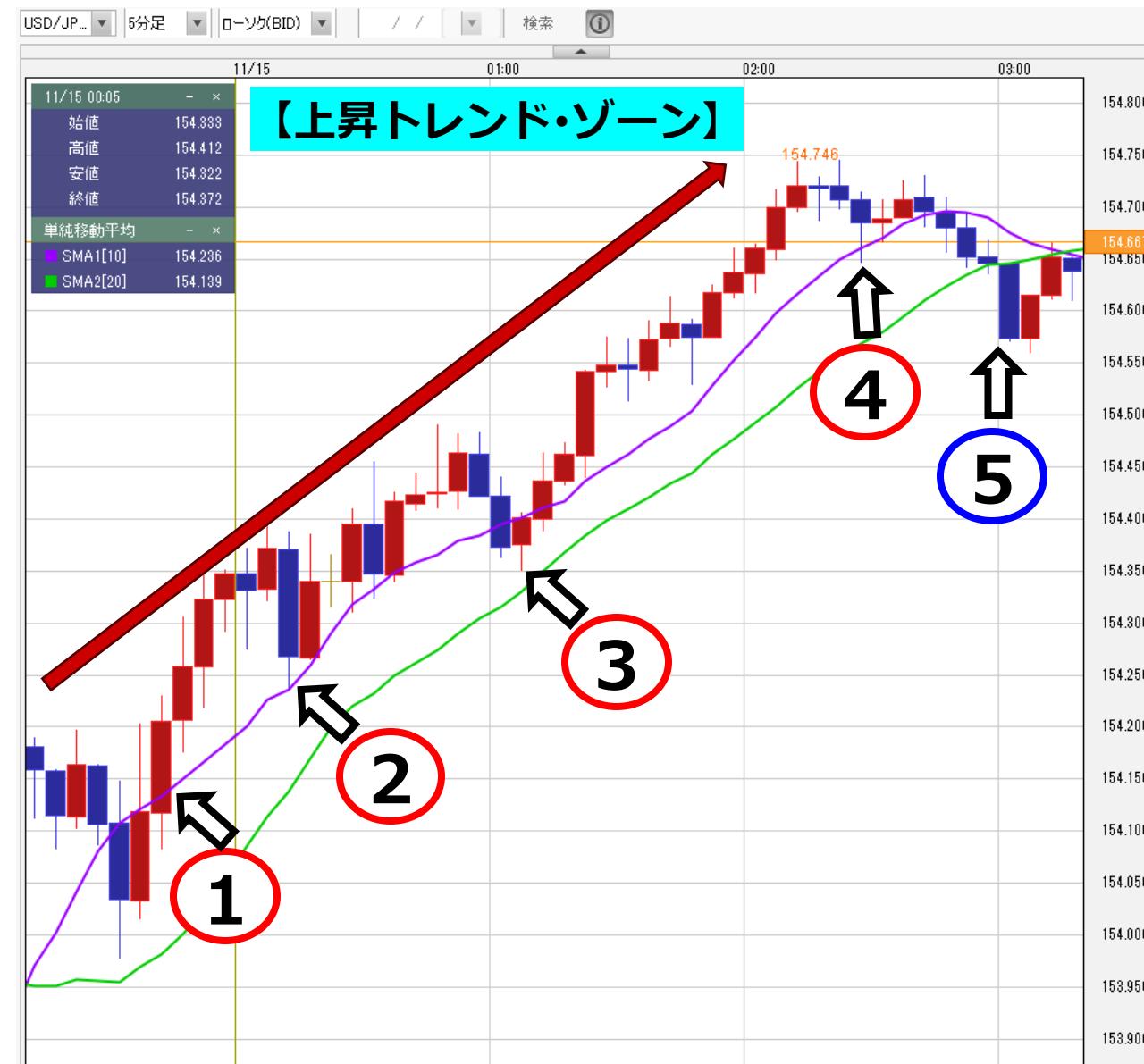
『移動平均線 ゾーン理論』(SMA10・20)の表示方法

【取引画面にログイン後(下記①～③)の設定実施で2本の単純移動平均線が表示されます】

- ①画面左側のチャート画像をクリックし「テクニカル・デザイン設定」画面を呼び出す
- ②単純移動平均線にチェックを入れる
- ③SMA1にチェックを入れパラメーターを「10」に変更 & SMA2チェックを入れパラメーターを「20」に変更



『移動平均線 ゾーン理論』を活用したトレード解説(1)

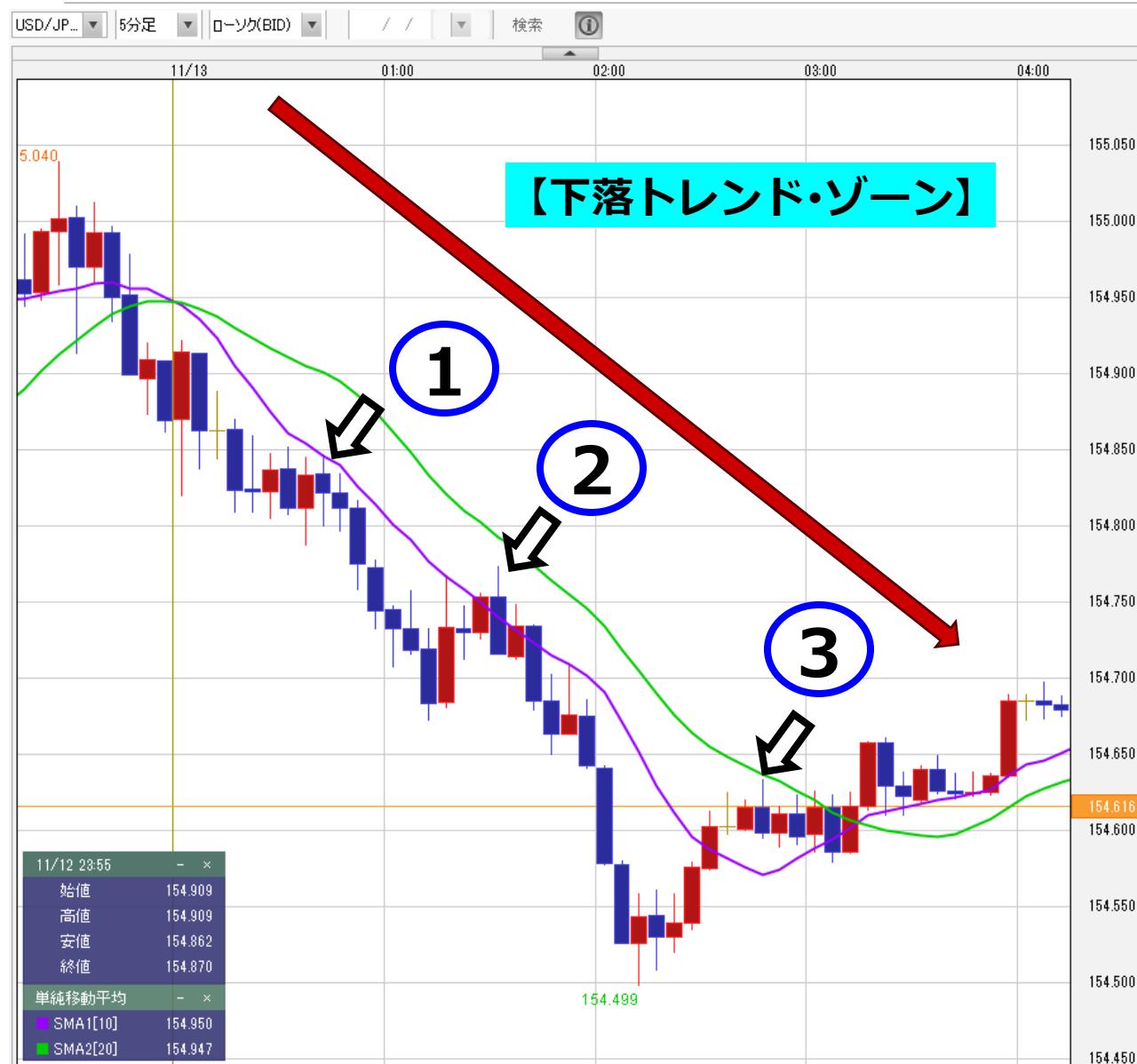


◇ 紫 : 10SMA 緑 : 20SMA

例)

- ①上向きとなつた10・20SMAのゾーン内で反発。10SMA上抜いたところで買い。
- ②10SMAで陰線だが下ヒゲを伸ばし、次の足で陽線を確認して買い。
- ③ゾーン内で下ヒゲ陽線形成。次の足で10SMAを上抜いたところで買い。
- ④10SMAで下ヒゲを伸ばしているが、反発の勢いが弱い。また、その前の高値付近で上ヒゲが連続して伸び悩んでいることもあり買いは見送り。なお、仮にエントリーしていた場合は、20SMAを下抜けた⑤で損切り。

『移動平均線 ゾーン理論』を活用したトレード解説(2)



◇紫：10SMA 緑：20SMA

例)

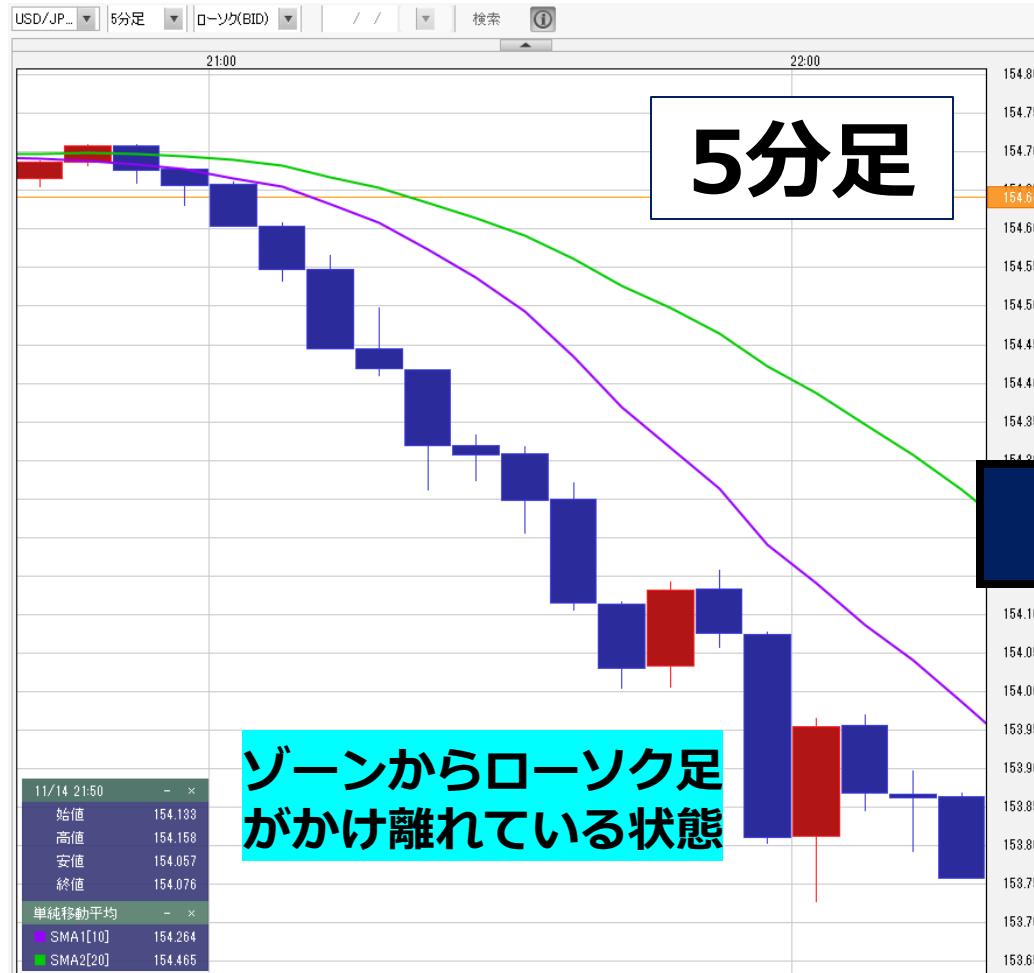
①わずかに10SMAにタッチして上ヒゲ陰線を形成。ただ下ヒゲも長い、次の足も陰線だが下ヒゲを伸ばして勢いがないため様子見。そして、その次の足は安値を切り下げるなど売り圧力が強まったとみられるため売り

②ゾーン内で上ヒゲを伸ばして10SMAを下抜ける陰線のため売り

③ゾーン内で上ヒゲ陰線を形成するも10SMAが上向きに変わっているため様子見

『移動平均線 ゾーン理論』を活用したトレード解説(3)

◇トレンドが強く5分足だとゾーンからかけ離れている場合には、
1分足で判断していくと、トレードの優位性が増す。



『移動平均線 ゾーン理論』を活用したトレード解説(4)

◇ 1分足で中途半端なところで価格が反転している箇所がある。ただ、5分足を見ると下向きSMAを上値抵抗に戻り売りポイントになっている



〈ゾーン理論の注意ポイント〉

- ▶ レンジ相場の時はSMAが横ばいとなるため判断できない！
- ▶ 1分足で見てトレンドが伸びていたとしても、その先に5分足で見た時のSMAが位置していた場合はそこで上値もしくは下値を抑えられる可能性がある！
- ▶ ゾーン理論に加えて、複数のエントリー根拠があるとより良い！
→例えば、10SMAの水準が過去何度も意識された上値抵抗・下値支持であれば戻り売り・押し目買いポイントとして判断しやすくなる。

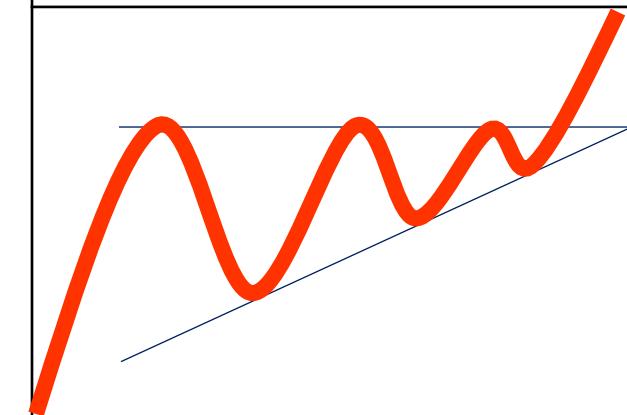
◆歴史は繰り返すというように、相場も同じような値動きが出現する。これをチャートパターンという。ここでは、よく出現する重要なチャートパターンを解説する。

- **トレンド継続型**：トレンド途中に生じる保ち合い相場のチャート形状のことをいう。チャート形状からトレンド再開の可能性や売買タイミングを見極める！
- **トレンド反転型**：それまでのトレンドが終え、新たなトレンドに転換する可能性を示すチャート形状！

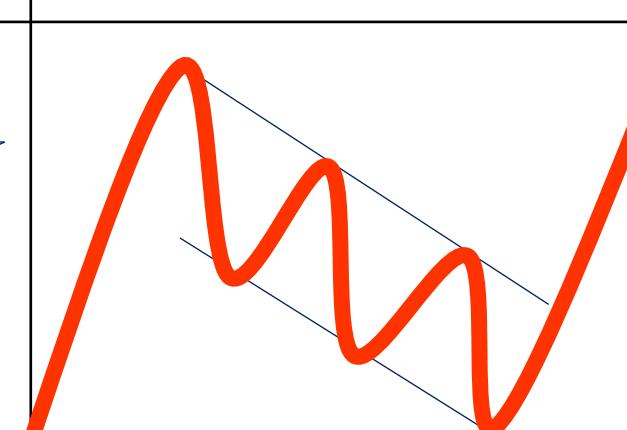
『トレンド継続型』チャートパターン

●チャートパターンは複数あり次ページ以降で解説しますが、是非ご自身でもチャートを眺め見つけられるようになって欲しい！

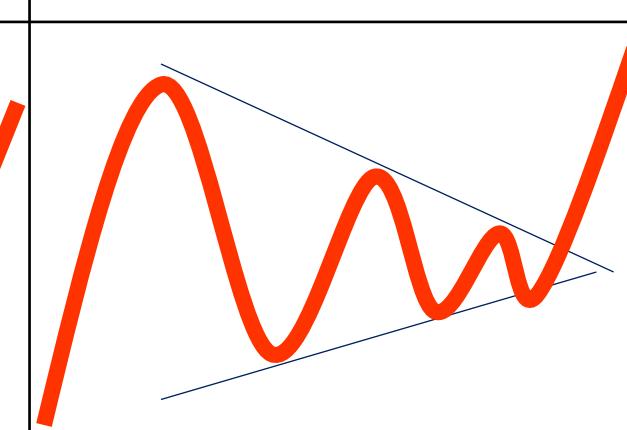
アセンディング
トライアングル



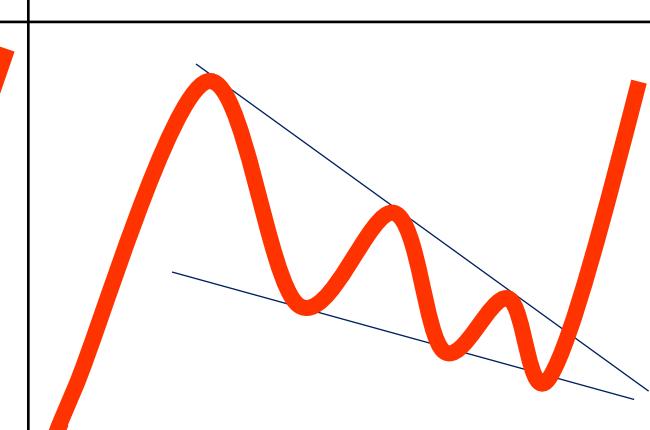
上昇フラッグ



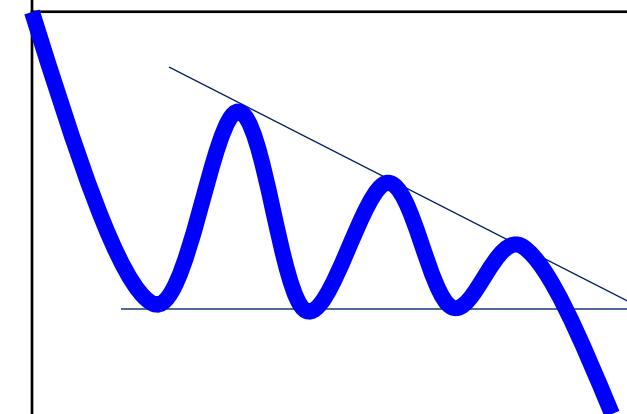
上昇ペナント



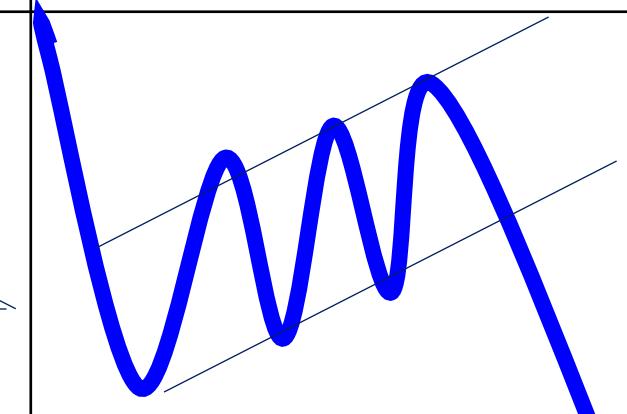
下降ウェッジ



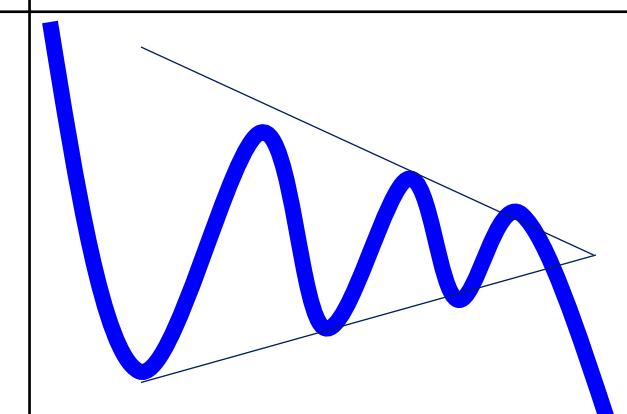
ディセンディング
トライアングル



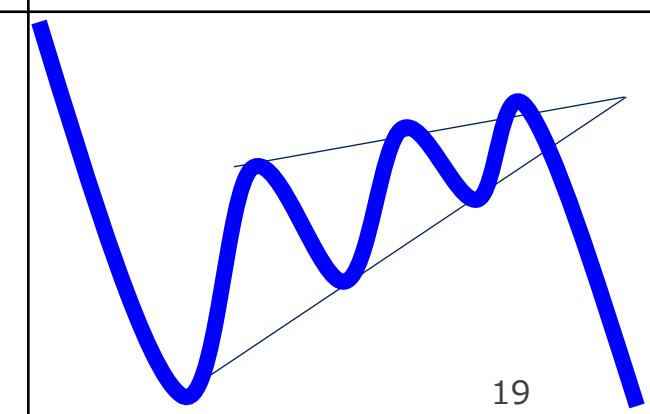
下降フラッグ



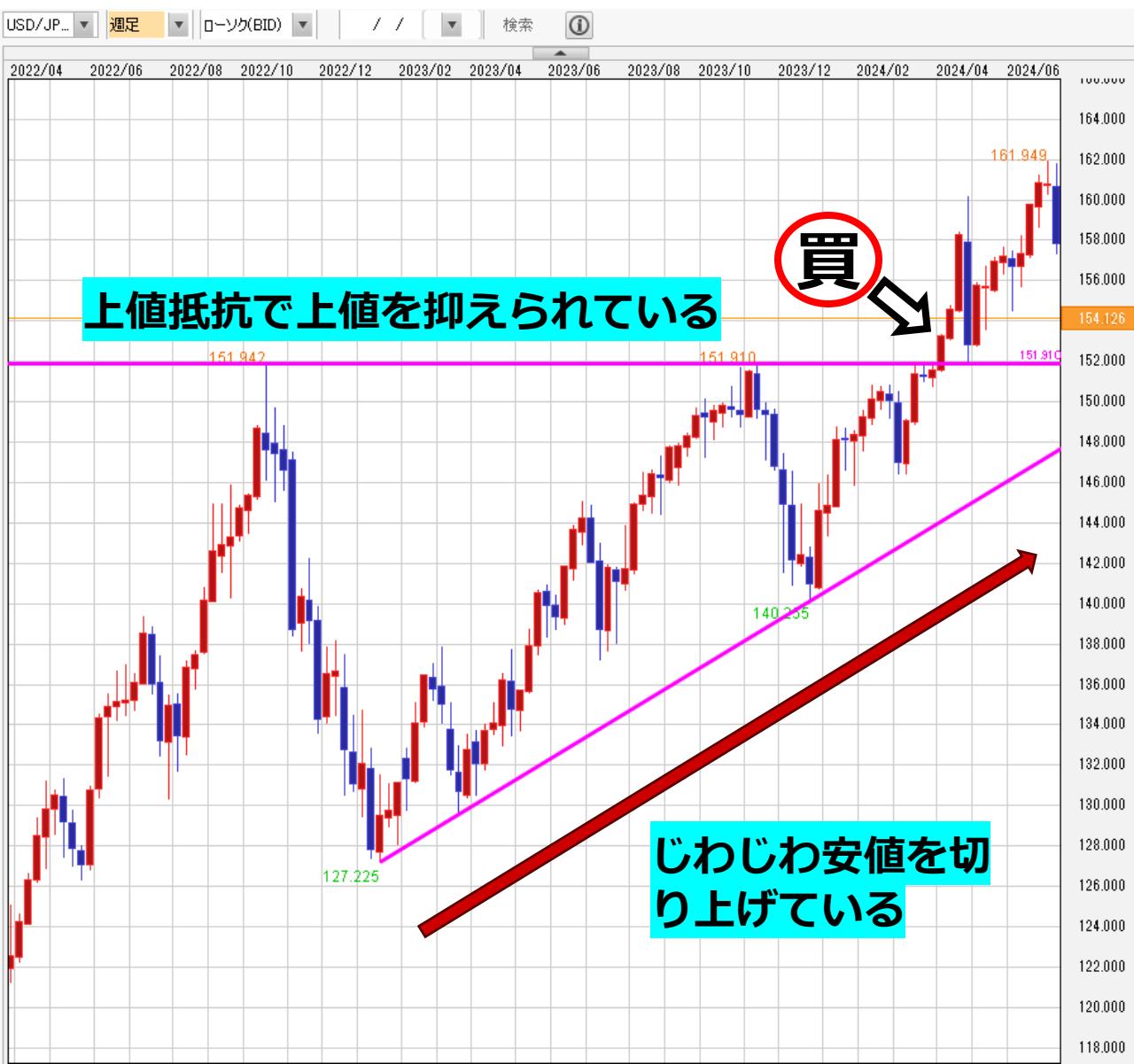
下降ペナント



上昇ウェッジ



『トレンド継続型』チャートパターンの解説(1)



<アセンディングトライアングル> (上昇三角形)

- ◇ 一定水準（**上値抵抗**）で上値が抑えられるも、**安値を切り上げ**ている状態
- ◇ 下値での**買い圧力**が強い状態を示している。上値抵抗を上抜けると**上昇**の勢いが強まる可能性がある⇒買いエントリー
- ◇ 形成期間が長いほど上値抵抗を上抜けた後の**上昇幅**が大きくなる可能性ある。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(2)



<ディセンディングトライアングル> (下降三角形)

- ◇ 一定水準（下値支持）で下値が支えられるも、高値を切り下げる状態
- ◇ 上値での売り圧力が強い状態を示している。下値支持を下抜けると下落の勢いが強まる可能性がある→売りエントリー
- ◇ 形成期間が長いほど下値支持を下抜けた後の下落幅が大きくなる可能性がある。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(3)



<上昇フラッグ>

- ◇ 上昇フラッグとは、**高値と安値を同程度、切り下げる**ことで**平行四辺形**に近い形状になる
- ◇ 上昇トレンド途中の保ち合いで**出現した場合**、フラッグを**トレンド方向にブレイク**すると**買い圧力が強まる**可能性がある
- ◇ なお、トレンドとは逆方向にブレイクした場合は勢いが強まる可能性もあるが、一時的な動きで終えることが多い。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(4)



<下降フラッグ>

- ◇ 下降フラッグとは、**高値と安値を同程度、切り上げることで平行四辺形に近い形状**になる
- ◇ 下落トレンド途中の保ち合いで出現した場合、フラッグをトレンド方向にブレイクすると**売り圧力が強まる可能性**がある
- ◇ なお、トレンドとは逆方向にブレイクした場合は勢いが強まる可能性もあるが、一時的な動きで終えることが多い。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(5)



<上昇ペナント>

- ◇ 上昇ペナントは、**高値を切り下げる一方で安値を切り上げ**、細長い**三角形**を形成するチャートパターンである
- ◇ 上昇トレンド途中の保ち合いで出現した場合、**ペナントをトレンド方向にブレイク**すると**買い圧力が強まる可能性**がある
- ◇ なお、トレンドとは逆方向にブレイクした場合は勢いが強まる可能性もあるが、一時的な動きで終えることが多い。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(6)



<下降ペナント>

- ◆ 下降ペナントは、**安値を切り上げる一方で高値を切り下げ**、細長い**三角形**を形成するチャートパターンである
- ◆ 下落トレンド途中の保ち合いで出現した場合、**ペナントをトレンド方向にブレイク**すると**売り圧力が強まる可能性**がある
- ◆ なお、トレンドとは逆方向にブレイクした場合は勢いが強まる可能性もあるが、一時的な動きで終えることが多い。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(7)



<下降ウェッジ>

- ◇ 下降ウェッジとは、**上値と下値を切り下げる**も徐々に**値幅が収縮**して勢いが弱まってきたことを示す状態
- ◇ 上昇トレンド途中の保ち合いで**出現**した場合、**ウェッジをトレンド方向にブレイク**すると**買い圧力が強まる**可能性がある
- ◇ なお、トレンドとは逆方向にブレイクした場合は勢いが強まる可能性もあるが、一時的な動きで終えることが多い。

『トレンド継続型』チャートパターンの解説(8)



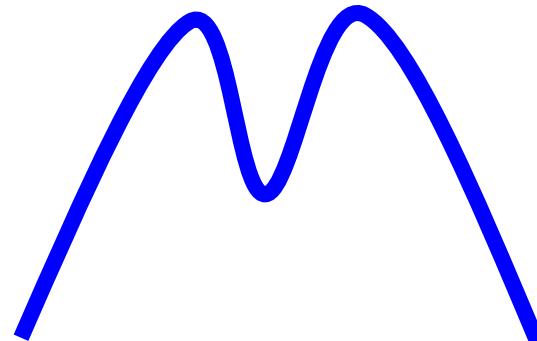
<上昇ウェッジ>

- ◇ 上昇ウェッジとは、**上値と下値を切り上げるも徐々に値幅が収縮して勢いが弱まってきたことを示す状態**
- ◇ **下落トレンド途中の保ち合いで出現した場合、ウェッジをトレンド方向にブレイクすると売り圧力が強まる可能性がある**
- ◇ なお、トレンドとは逆方向にブレイクした場合は勢いが強まる可能性もあるが、一時的な動きで終えることが多い。

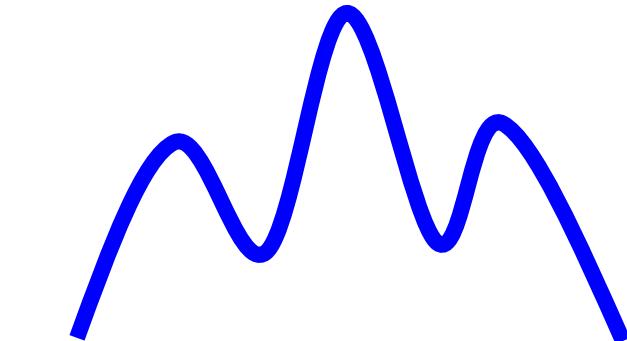
『トレンド反転型』チャートパターン

- チャートパターンは複数あり次ページ以降で解説しますが、是非ご自身でもチャートを眺め見つけられるようになって欲しい！

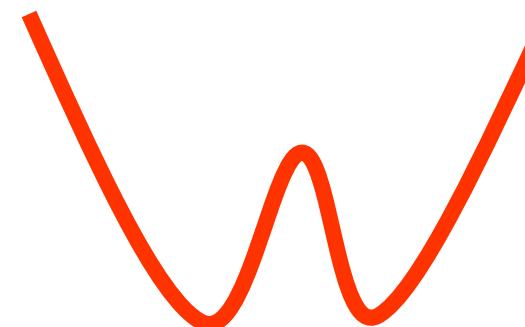
ダブルトップ



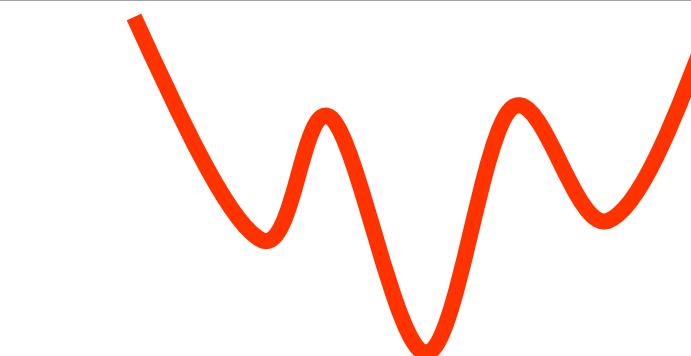
ヘッド&ショルダーズトップ（三尊）



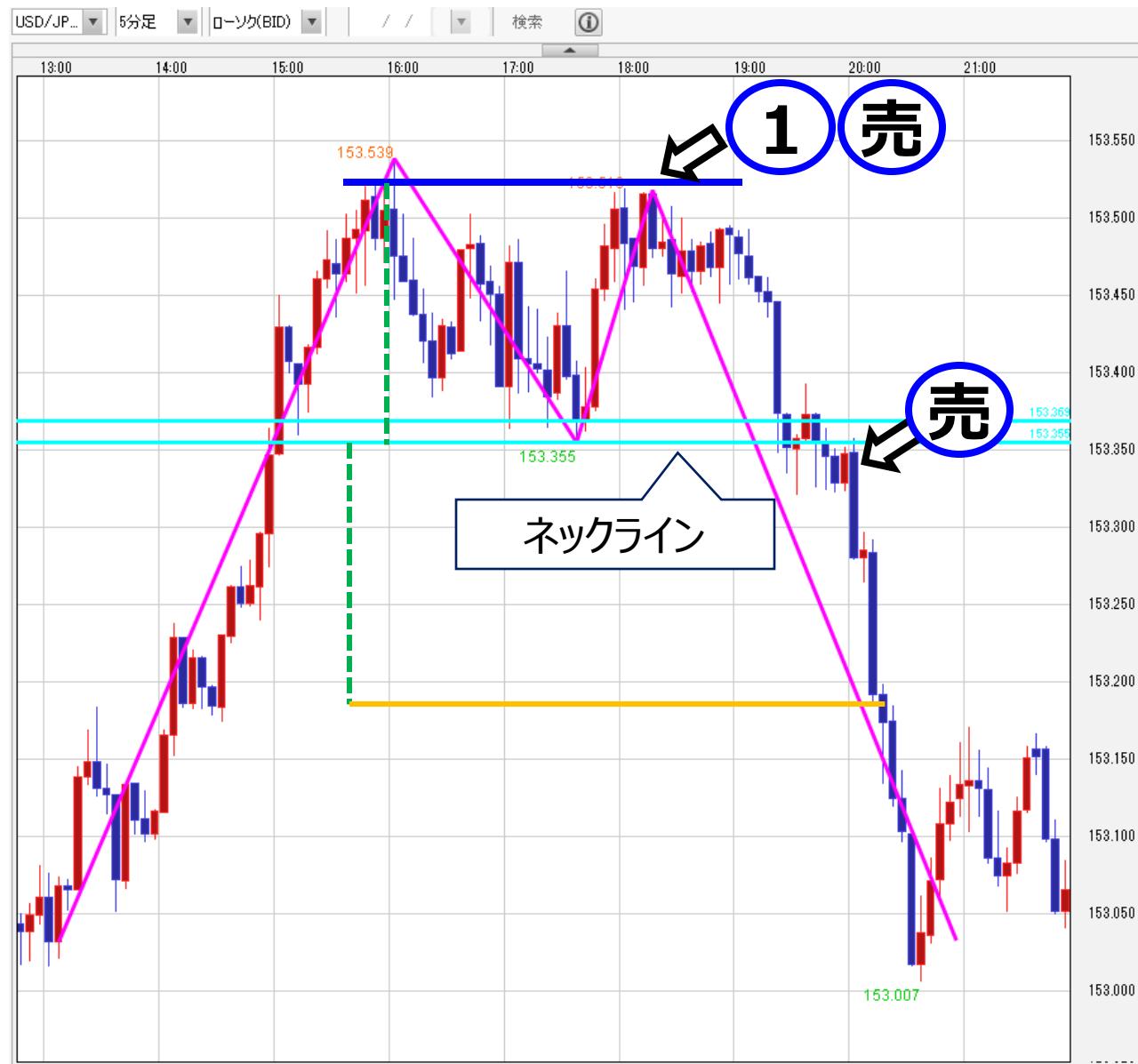
ダブルボトム



ヘッド&ショルダーズボトム（逆三尊）



『トレンド反転型』チャートパターンの解説(1)



<ダブルトップ>

◇ネックラインを下抜けした場合は、高値からネックラインまでの値幅分、さらに下落する可能性がある。

※当然、その値幅よりも下落しないとき、それ以上に下落するときもあるため、あくまで一つのターゲットとして考えること。

◇①で上ヒゲを伸ばして反落の可能性があれば、ダブルトップ形成に向かうと考えて、そこで売ることもある。なお、高値を上抜けたら損切りとなる。

『トレンド反転型』チャートパターンの解説(2)



<ダブルボトム>

◆ネックラインを上抜けした場合は、**安値からネックラインまでの値幅分**、さらに**上昇する可能性**がある。

※当然、その値幅よりも上昇しないとき、それ以上に上昇するときもあるため、あくまで一つのターゲットとして考えること。

◆①で下ヒゲを伸ばして**反発の可能性**があれば、ダブルボトム形成に向かうと考えて、**そこで買う**こともある。なお、安値を下抜けたら損切りとなる。

『トレンド反転型』チャートパターンの解説(3)



<ヘッド&ショルダーストップ(三尊)>

- ◆ **三つの山 (高値) で形成され、二つ目の山が最も高くなり一つ目と三つの山がそれよりも低くなる**
- ◆ **三つの山の間にできる二つの谷 (安値) を結んだラインがネックラインとなり、明確に下抜けたら売り圧力が強まる可能性がある。**
- ◆ **ネックラインを下抜けた後は、同ラインが上値抵抗として意識される可能性。値を戻したとしても同水準で反落するようだと戻り売りタイミングと見る。**

『トレンド反転型』チャートパターンの解説(4)



＜ヘッド&ショルダーズボトム(逆三尊)＞

- ◇ 三つの谷（安値）で形成され、二つ目の谷が最も低くなり一つ目と三つ目の谷がそれよりも高くなる
- ◇ 三つの谷の間にできる二つの山（高値）を結んだラインがネックラインとなり、明確に上抜けたら買い圧力が強まる可能性がある。
- ◇ ネックラインを上抜けた後は、同ラインは下値支持として意識される可能性。値を戻したとしても同水準で反発すると押し目買いタイミングと見る。

『レンジ相場』での取引の解説(1)



- ◆レンジ相場とは、方向感がなく一定の値幅内で上下を繰り返す相場状況である。
- ◆レンジ上限では売り、レンジ下限では買いのタイミングを見極める。
- ◆レンジの上値・下値水準はゾーンで考える。例えば「154.80円-154.83円」をレンジ上限としてそのゾーン内で売る。「154.63円-154.65円」をレンジ下限としてそのゾーン内で買う。
- ◆勢いが強くゾーンを抜けることもあるが、ヒゲを残してレンジ内に戻ってくればそのままレンジ取引で考える。

『レンジ相場』での取引の解説(2)

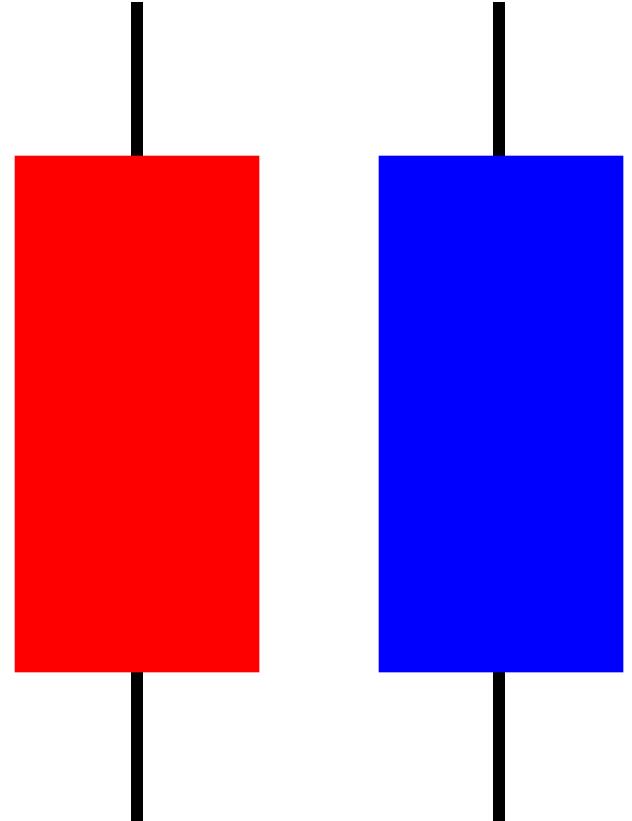


- ### <レンジブレイク>
- ◇レンジブレイクとは、レンジ上限・レンジ下限を明確に突破してそのまま上昇・下落していく状態。そのため、明確に突破したところがエントリーポイントとなる。
 - ◇なお、突破するもヒゲを伸ばしてレンジ内に戻ってくるケースもあるため、ローソク足の形状や勢いを見て判断する必要がある点に注意。
 - ◇レンジ期間が長いほどブレイクした後の値幅は大きくなる傾向がある

注目すべきローソク足の形状

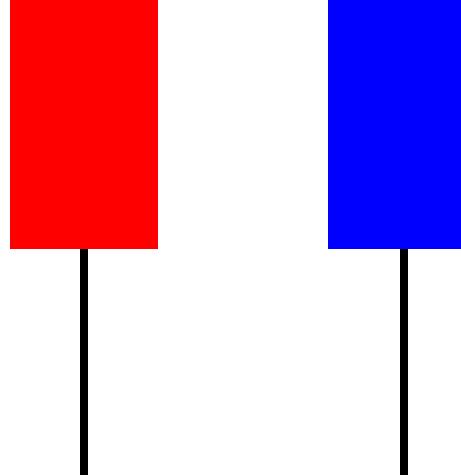
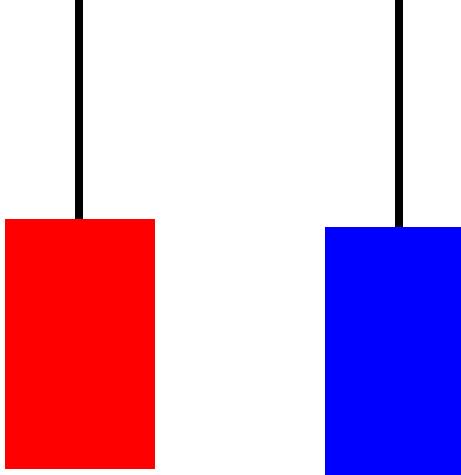
- ◇ 上昇・下落が継続するのか？、上値抵抗で反落、下値支持で反発するのか？それを判断するうえでローソク足の形状や並びが重要となる！
- ◇ ローソク足は、価格変化によって形成される。つまりその時点の市場心理が隠れていると考える。そのため、ローソク足の形状や並びの意味合いを読み取ることで今後の相場展開を予測することに繋がるのである。
- ◇ 次ページより、よく出現する重要なローソク足を解説していく。

<ローソク足>

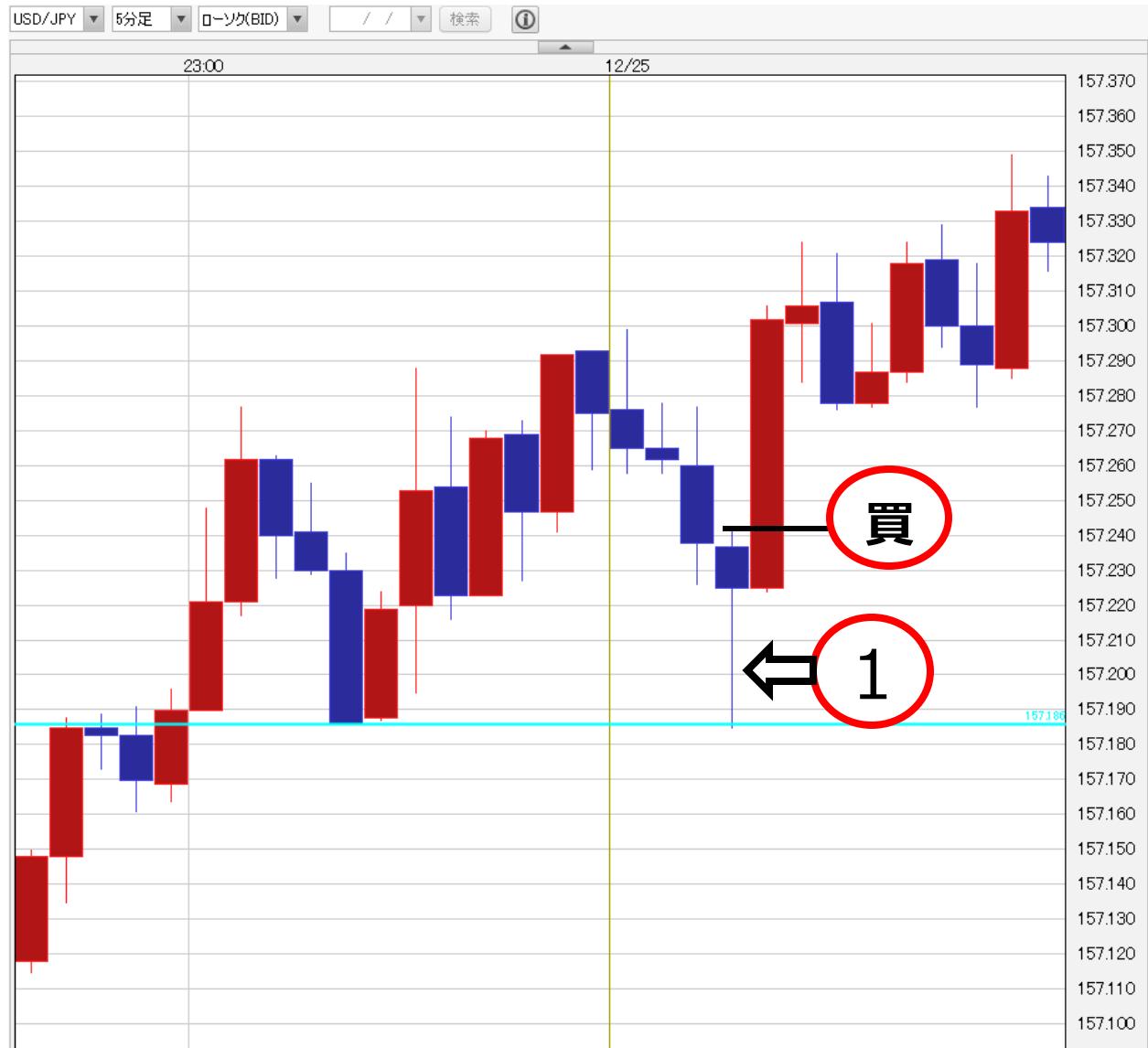


注目すべき『ローソク足の形状』の解説(1)

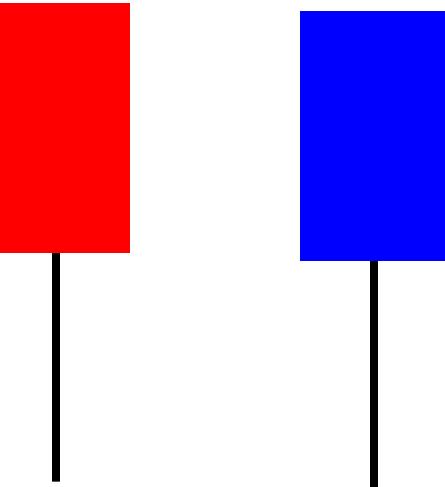
●ローソク足形状は複数あり次ページ以降で解説しますが、是非ご自身でもチャートを眺め見つけられるようになって欲しい！

下ヒゲ陽線・下ヒゲ陰線	上ヒゲ陽線・上ヒゲ陰線
	
<p><u>底堅さから反発の可能性を示す。</u></p> <p>押し目買いポイントなどで出現した場合 (買い)エントリータイミングとなる可能 性がある。</p>	<p><u>上値の重さから反落の可能性を示す。</u></p> <p>戻り売りポイントなどで出現した場合 (売り)エントリータイミングとなる可能 性がある。</p>

注目すべき『ローソク足の形状』の解説(2)

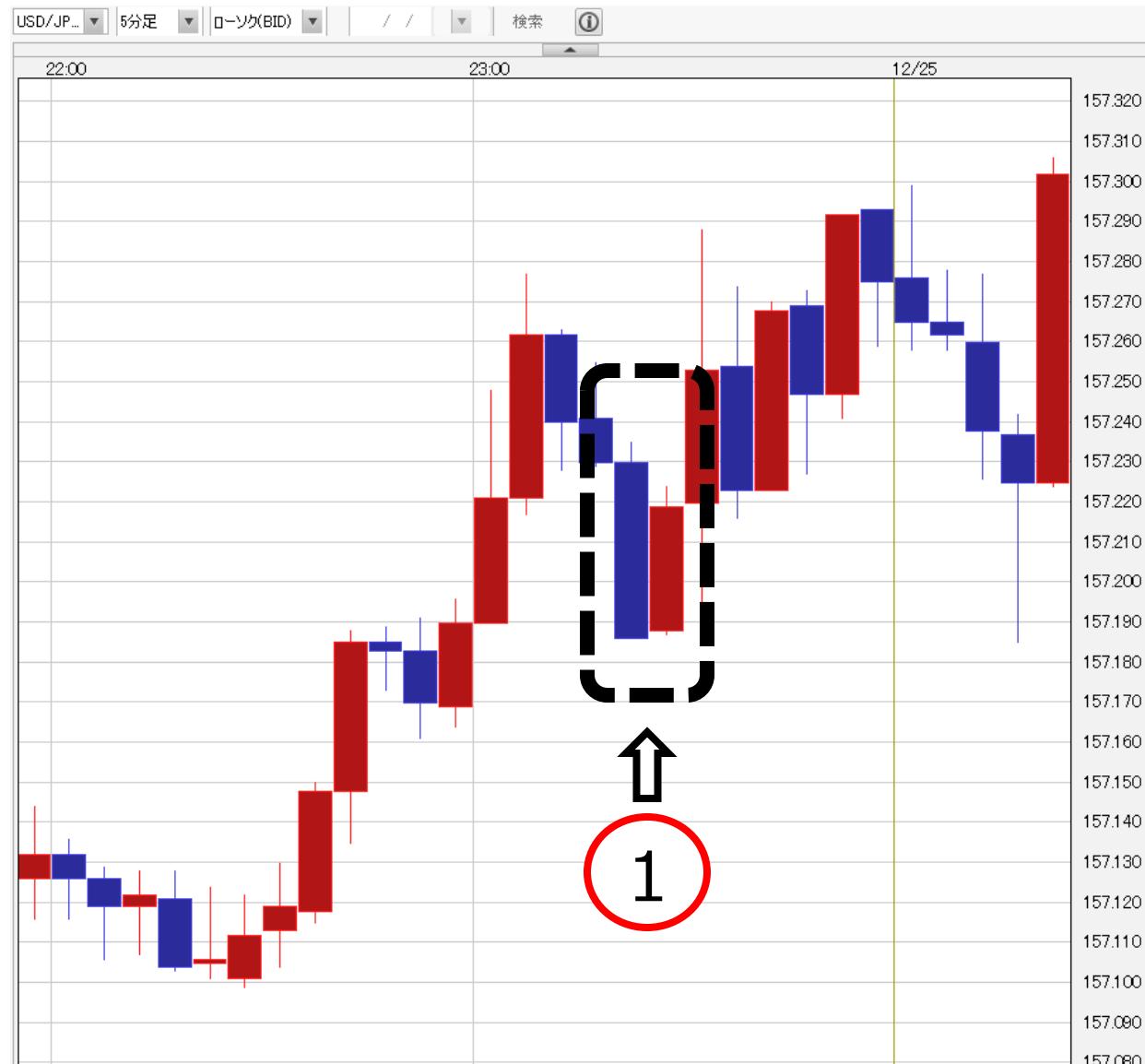


下ヒゲ陽線・下ヒゲ陰線

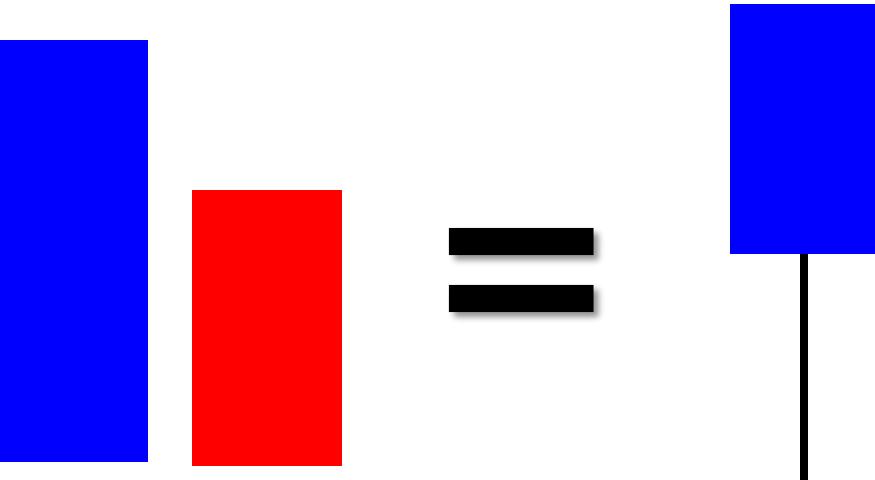


①直近安値水準をサポートに下ヒゲ陰線を形成。次のローソク足が陽線で始まり下ヒゲ陰線の高値を上抜けたところで(買い)エントリーを検討。
※仮に下ヒゲ陰線の出現の場合は反発が弱い可能性があるため次のローソク足も確認する。

注目すべき『ローソク足の形状』の解説(3)



下ヒゲ陽線・下ヒゲ陰線



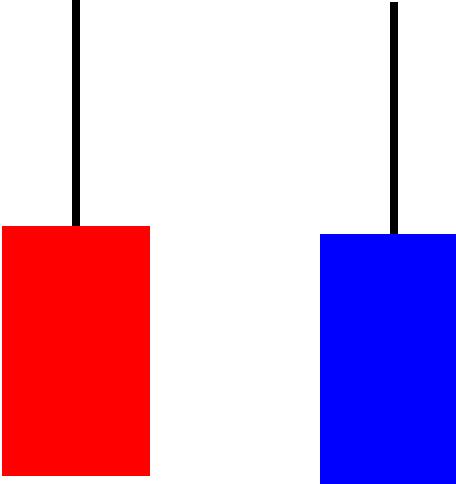
①隣り合った2本のローソク足をプラスすると別の形（下ヒゲ陰線）が浮かび上がる！（上昇の可能性が示唆される）

例）5分足を2本足すと⇒10分足の形状
30分足を2本足すと⇒60分足の形状

注目すべき『ローソク足の形状』の解説(4)



上ヒゲ陽線・上ヒゲ陰線

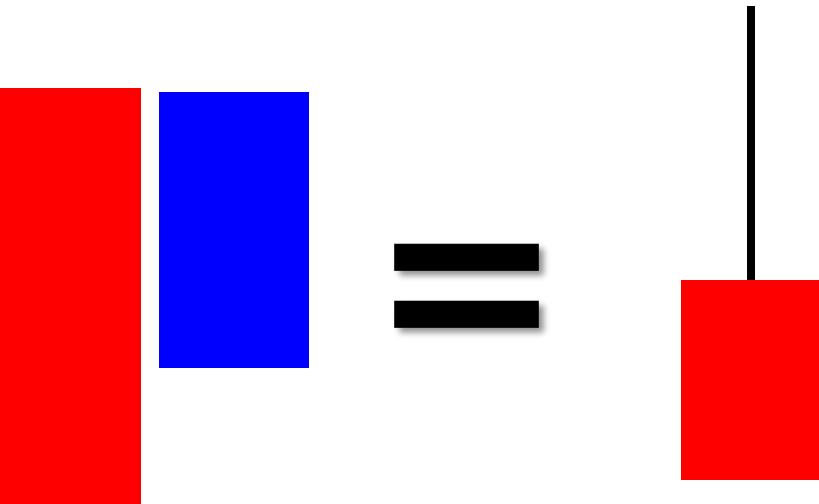


①上ヒゲ陰線、上ヒゲ陽線と連続して上値の重さが示された。次のローソク足で上ヒゲ陽線の安値を下抜けたタイミングで(売り)エントリーを検討！
※上ヒゲ陽線の出現の場合は、下落の勢いが弱い可能性があるため次のローソク足を確認する。

注目すべき『ローソク足の形状』の解説(5)



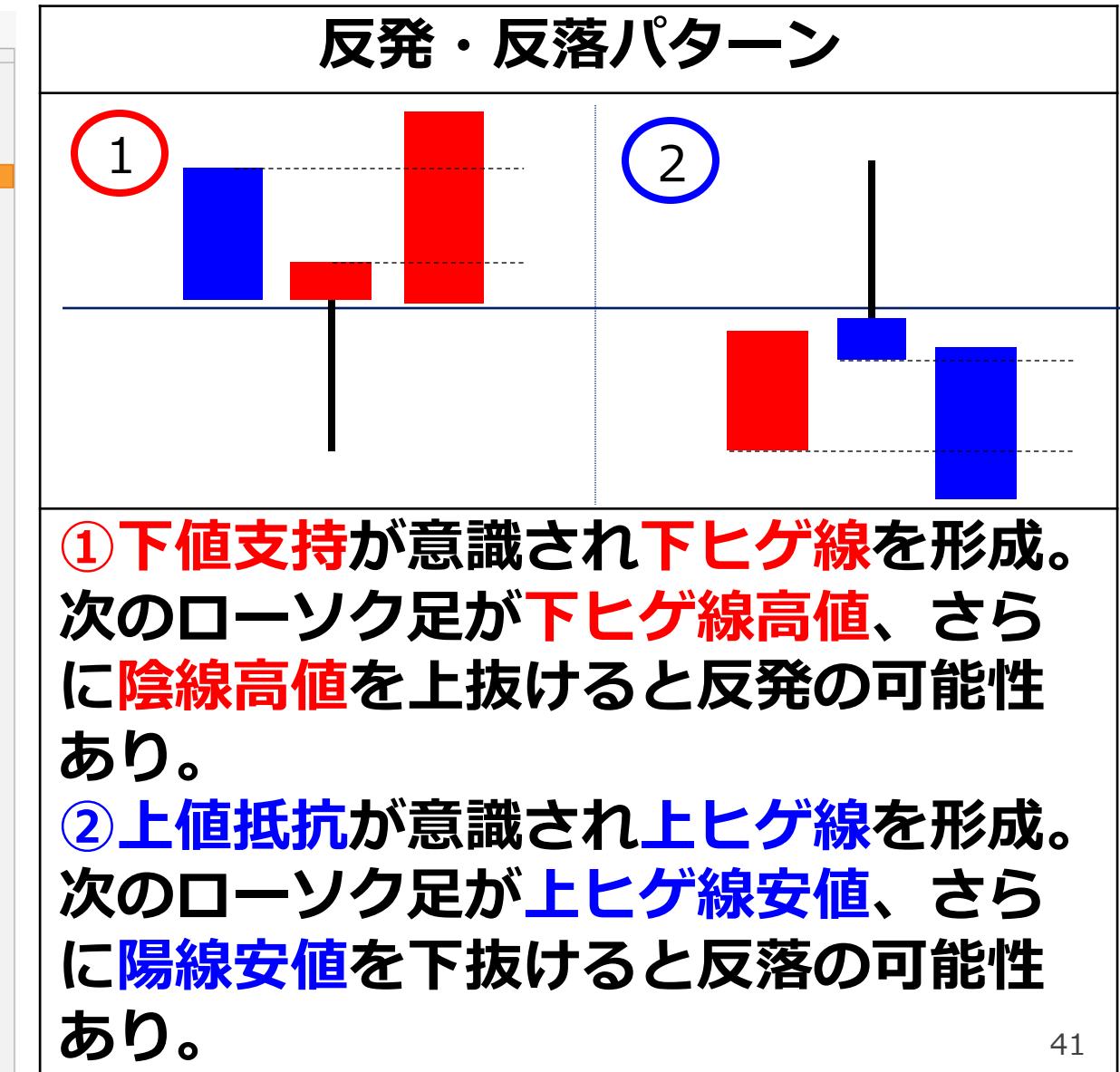
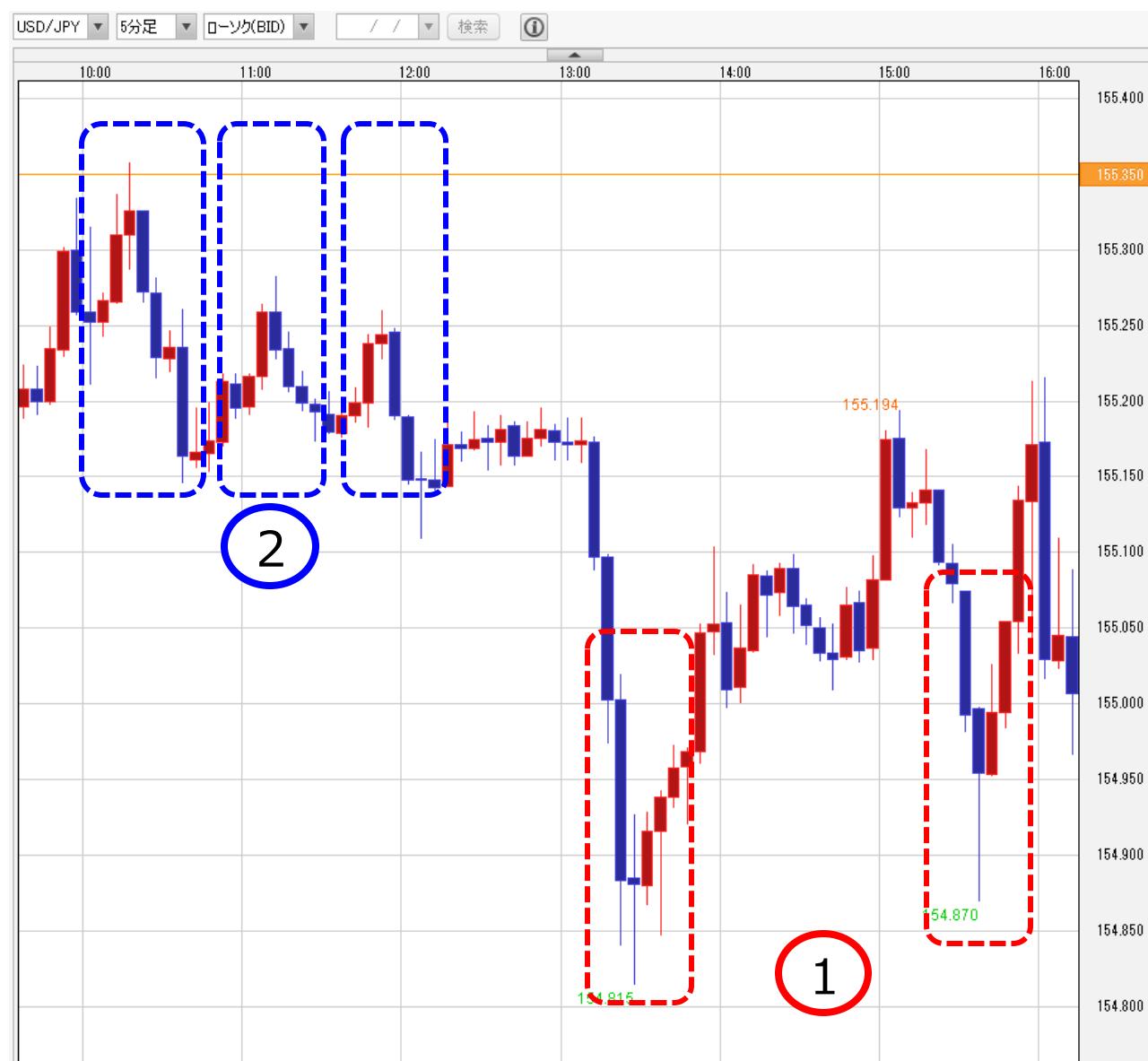
上ヒゲ陽線・上ヒゲ陰線



①隣り合った2本のローソク足をプラスすると別の形（上ヒゲ陽線）が浮かび上がる！(下落の可能性が示唆される)

例) 5分足を2本足すと⇒10分足の形状
30分足を2本足すと⇒60分足の形状

注目すべき『ローソク足の形状』の解説(6)



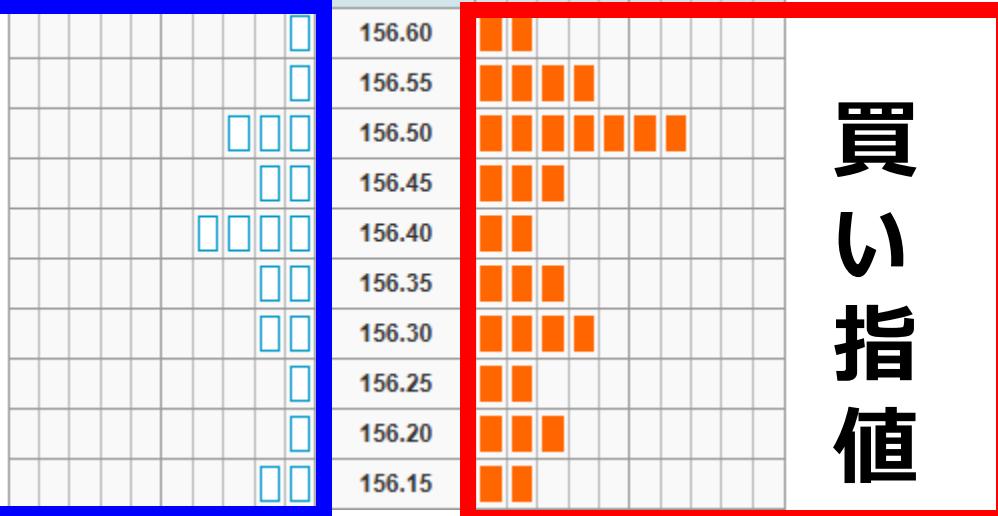
『外為注文情報』の活用方法

売り指値



買いストップ

売りストップ



買い指値

◆外為どっとコム会員による注文情報を確認することで、どの水準が市場参加者に意識されているのか把握できる！

◆大量(MAXゲージ)に注文が入っている水準が上値抵抗・下値支持になる可能性があり、予め警戒することが可能！

- ①売り指値：上値抵抗になる可能性
- ②買い指値：下値支持になる可能性
- ③売ストップ：売りが加速する可能性
- ④買ストップ：買いが加速する可能性

※ログイン後、情報ナビから確認できる。
(詳細は次ページに掲載)

『外為注文情報』の呼び出し＆表示方法

①取引画面にログイン後 ⇒ 『経済指標in情報ナビ』バナーをクリック



The screenshot shows the Gaitame.com trading platform interface. At the top, there is a navigation bar with various links: '外貨NEXTneo' (Foreign Currency NEXTneo), '会員ランク Diamond' (Member Rank Diamond), '両建てなし' (No Arbitrage), 'お知らせ' (Announcements), 'マイページ' (My Page), '経済指標 in 情報ナビ' (Economic Indicators in Information Nav) (which is highlighted with a red box), 'G.comチャート' (G.com Chart), 'ぴたテク' (Pita Tek), and '外貨NEXT バイナリー' (Foreign Currency NEXT Binary). Below the navigation bar is a menu bar with links: '設定' (Settings), '表示' (Display), '情報' (Information), '注文' (Order), 'チャート' (Chart), 'スワップポイント振替' (Swap Point Transfer), '入出金' (Funding), '履歴検索/報告書' (History Search/Report), 'マーケット情報' (Market Information), 'サポート/サービス情報' (Support/Service Information), '操作マニュアル' (Operation Manual), and 'Q & A'. Underneath the menu bar, there is a summary table showing asset totals: '資産合計' (Total Assets) 0, '有効評価額' (Effective Evaluation Amount) 0, '必要保証金額' (Required Margin Amount) 0, '注文中保証金額' (Margin Amount in Order) 0. At the bottom of the interface, there is a menu with various trading and information links.

②情報ナビ ⇒ サイト内・左側に表示されている項目『外為注文情報・板情報』をクリック



The screenshot shows the 'Information Nav' sidebar on the left side of the page. The sidebar has several sections: '外為注文情報・板情報' (Foreign Exchange Order Information - Board Information) (which is highlighted with a red box), '外為注文情報・板情報の見方' (How to view Foreign Exchange Order Information - Board Information), '売買比率情報' (Buy/Sell Ratio Information), 'ポジション比率情報' (Position Ratio Information), and '速報メールサービス' (Quick Report Email Service). The main content area displays a table of economic indicators. A red arrow points down to the 'Foreign Exchange Order Information' section in the main content area.

11月 Rating Dog サービス部門購買担当者景気指数 (PMI)		
52.6	52.1	52.1
11月消費者物価指数 (CPI) (前月比)		
2.55%	1.25%	
11月消費者物価指数 (CPI) (前年同月比)		
32.87%	31.60%	
11月消費者物価指数 (CPI) (前月比)		
-0.3%	-0.2%	
11月サービス部門購買担当者景気指数 (PMI、改定値)		



『外為注文情報』が表示され、確認することができる。

『リスクリワードを考えて エントリータイミングを待つ』

◆『リスクリワード』とは、1回の取引における損失と利益の比率のこと！

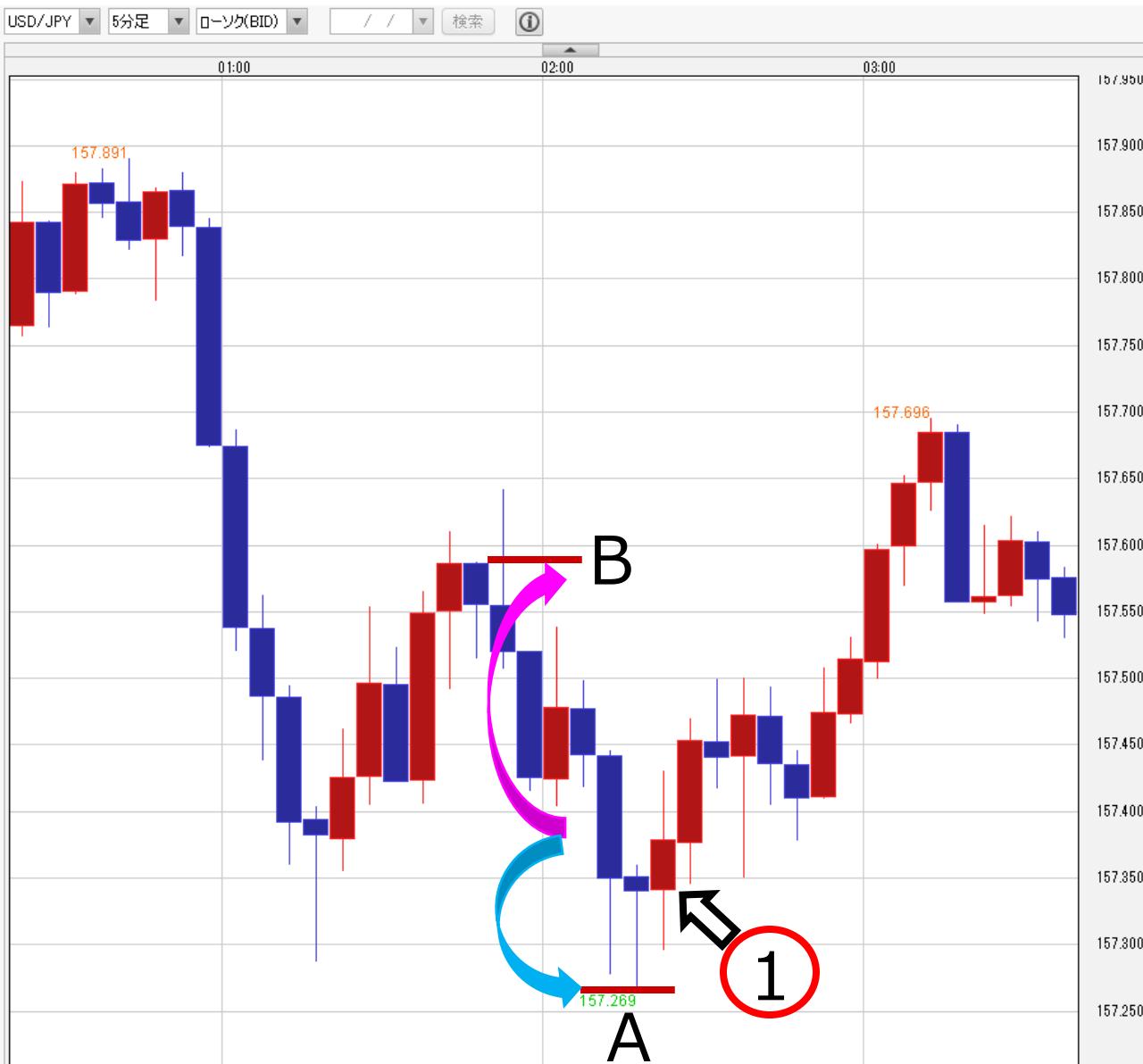
例)

損切り	利益確定	リスクリワード	利益を残すための取引勝率
50円	100円	1 : 2	4割程度
50円	50円	1 : 1	6割程度
100円	50円	2 : 1	7割程度

◆一般的に損は小さく、利益は大きく『損小利大』の取引が良いと言われている。ただ、上述のように勝率が7割の取引スタイルならリスクリワードが「2 : 1」と損失が大きくても利益を残すことが出来る。つまり、自分のスタイルに合わせたリスクリワードを考えると良い、ということ。

◆そして、リスクリワードを考えることはエントリータイミングの判断にもつながる！

エントリー時に考える『リスクリワード』の解説(2)



◆例) 平均勝率7割程度の短期売買

基本的にリスクリワード『1：1』を目安に判断しているが、なるべく損切りが少なくなるまで引き付けることを意識しトレードに臨む。

◆左のチャートはダブルボトムを形成しており二つ目のボトムを見てエントリー(①で買い)したい。この場合は「Aで損切り」「Bで利益確定」を検討。

①の足でエントリーの場合だと、リスクリワード「1：1」の条件を満たしているため反発形状であれば買っていく！

エントリー時に考える『リスクリワード』の解説(3)



◆左のチャートはダブルボトムを形成しており二つ目のボトムを見てエントリーしたい。その場合は「Aで損切り」「Bで利益確定」を検討。

②の足でエントリー(②で買い)の場合だとリスクリワードは損切りのほうが大きくなっている。この場合はエントリーを見送ることになる！

※ただ、上昇の可能性が高い動きだとエントリー(②で買い)することもある。その場合、取引数量 (Lot) を減らして損失リスクを軽減するのも戦略となることを意識する。

難平（ナンピン）は良くないのか？

- ◇ 難平とは、保有しているポジションが含み損となっているときに、
購入単価を下げる目的で追加で注文を出すこと！
- ◇ 「**感情的難平**」と「**戦略的難平**」を意識してみる
→ 「感情的難平」とは、相場が予測とは異なる動きとなり含み損が大きくなる中で、
助かりたいとの感情から追加で注文を出していくこと。
→ 「戦略的難平」とは、マイルールとして「どんな場面」で「どれだけ」追加注文を
出していいかなど事前に決めて、それを実行すること。



つまり「感情的難平」が良くない。発注できるだけ追加注文を出してしまい、損切りもできず大きな損失を出してしまう可能性があるのだ！
難平する場合は、事前に戦略を考えておく必要があることを理解しよう！

難平（ナンピン）は良くないのか？



例) ◇赤色のサポートラインで反発した
①で買い。
(Aラインで損切り、Bラインで利益確定)

一時は上昇するも反落して再び赤色サポートラインに到達。下ヒゲ出現を確認して「ここで難平」する。

【理由】

- ・サポート水準のため再び上昇の可能性
 - ・損切り水準まで近いため、損切りになつたとしても追加分の損は少なめ。
- ※複数回難平してLOTが大きなりすぎた場合には無理して利益を狙わず、プラスマイナス0程度でいったん決済する！

◇じり高・じり安相場は買い・売り圧力が強く調整の動きが出にくいため、一方向へ進む状態。つまり『押し目待ちに押し目なし』状態となる可能性が高い。



＜じり高・じり安の時の考え方＞

- ①より短い時間足で押し目・戻りポイントを探ってみる！
- ②分割で注文を出してみる！
→普段5Lotの場合は1Lotを5回に分けて注文を出すなど。
→基本、下がったり勢いが強まったときに追加で注文を出す。
- ③深めの調整が入りづらい場面のため、逆張りは止めておく！

コツコツドカンに繋がった失敗例

コツコツドカンに繋がった失敗例の紹介(1)



<損切りずらし>

①で戻り売りエントリーした際に、当初心はAで損切りを検討していた。

ただ、上抜けした後にもう少し見たいとしてBの位置での損切りに変更した。

その後、急騰して損切りタイミングがさらに遅れて損失が大きくなってしまった。



「損切りルールを守らなければ、自分の戦略とは異なる取引となってしまう。守らなかつたことで助かることもあるが、たった1回の失敗で取り返しつかないことにも繋がる可能性がある」認識大切。

コツコツドカンに繋がった失敗例の紹介(2)



<トレンド途中の深い調整時の難平>

明確で勢いがあるトレンドが出た後の
持ち高調整は深くなる傾向がある。

その調整局面を押し目買い・戻り売りタ
イミングとして難平していくも、一向に
戻ってくることなく大きな損失に繋がつ
てしまうパターンにハマってしまう。



「明確なトレンド局面とはいえ、反転パ
ターンなどが出でトレンドの勢いが
弱まったことが確認できた時には、短期
的なトレンドについていく必要がある」
ため要注意である！

＜その他＞

- ① デイトレード目線で持ったポジなのに翌営業日へポジションを持ち越してしまった！
→持ち越すときは**含み損があるとき**。そもそも**損切りが出来ていないのがダメ**。
- ② 要人発言で変動した動きに対して、逆張りトレードしてしまった！
→特に**金融政策**についての発言。利上げ・利下げ観測を高めるような発言で値動きがあった場合の**逆張りは要注意**。急激に相場の方向性が変化するため。
- ③ 大きな損切りをしたときのドテン取引で大失敗！
→**大きめの損切り**をしたときは、**冷静ではない可能性**がある。そんな時にすぐにドテンすることは目線がずれている可能性がある。いったん、深呼吸、休憩して**冷静になって改めて判断**をしたほうが良い。

● 免責事項

本資料の情報には充分に注意を払っていますが、その内容について保証するものではありません。また本内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本内容を参考にしたことによって生じたいかなる損害につきましても、株式会社外為どっとコムならびに株式会社外為どっとコム総合研究所は一切の責任を負いかねますことをご了承ください。